

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2023

課題番号：16K04089

研究課題名（和文）孤立化するひとり親家族の子どもの社会的苦悩に対するNPO支援の日韓仏国際比較

研究課題名（英文）International Comparative Study among Japan, Korea and France about Supports by Non-profit Organizations for Isolated Children of One Parent Families who Have Distresses

研究代表者

近藤 理恵（KONDO, RIE）

岡山県立大学・保健福祉学部・教授

研究者番号：60310885

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、リスク社会のなかで孤立する、日本、韓国、フランスのひとり親家族の子どもが抱えている3つの社会的苦悩である、（1）食事に関わる社会的苦悩、（2）教育に関わる社会的苦悩、（3）人間関係に関わる社会的苦悩の実態について明らかにするとともに、これらの3つの社会的苦悩を解決するためのNPOによる支援の状況について3カ国間で比較検討した。3カ国のなかで、フランスによる支援が最も進んでいた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、ひとり親家族の子どもの食事、教育及び人間関係に関する研究がなされてきたが、本研究の学術的意義は、ひとり親家族の子どもの食事、教育及び人間関係に関わる社会的苦悩に焦点を当てながら、これらの社会的苦悩に対するNPOによる支援について、日本、韓国、及びフランスにおいて比較検討した点にある。また、本研究の社会的意義は、ひとり親家族の子どもの食事、教育、及び人間関係に関わる社会的苦悩に対する政策を3カ国の比較によって導き出した点にある。

研究成果の概要（英文）：This study clarified three social distresses faced by children of one parent families in Japan, Korea and France, who are isolated in risk society: (1) food-related distress, (2) education-related distress, and (3) relationship-related distress. France was the most advanced in providing support in three countries.

研究分野：社会学

キーワード：食事に関わる社会的苦悩 教育に関わる社会的苦悩 人間関係に関わる社会的苦悩

1. 研究開始当初の背景

近年、ひとり親家族が増加しているが、日本のひとり親家族の貧困率は高い状態にある。先行研究では、ひとり親家族の子どもたちは、食事、教育、人間関係に関わる悩みを抱えていることが明らかとなっている。

こうしたなか、これらの悩みが社会的に生み出された「社会的苦悩(la souffrance sociale)」(P・ブルデュー)であると捉えた上で、日本のひとり親家族の子どもたちが抱えているこれらの3つの社会的苦悩(食事に関わる社会的苦悩、教育に関わる社会的苦悩、人間関係に関わる社会的苦悩)の実態と、これらの社会的苦悩を解決するためのNPOによる支援策(食事に関わる支援、教育に関わる支援、人間関係に関わる支援)について研究することが求められている。また、その際、日本の状況を子どもや家族に関する政策が進んでいるフランスや、東アジアの国である韓国の状況と比較検討することにより、ひとり親家族の子どもたちの食事、教育、人間関係に関する今後の政策のあり方について検討することは重要であると考えられる。

2. 研究の目的

こうしたなか、本研究の目的は、リスク社会の中で孤立する、日本、韓国、フランスのひとり親家族の子どもが抱えている3つの社会的苦悩である、(1)食事に関わる社会的苦悩、(2)教育に関わる社会的苦悩、(3)人間関係に関わる社会的苦悩の実態について明らかにするとともに、これらの3つの社会的苦悩を解決するためのNPOによる支援のあり方を、日本、韓国、フランスの3か国間において比較検討した上で、これら3つの社会的苦悩を解決するための政策について明らかにすることにある。本研究において、「社会的苦悩(la souffrance sociale)」(P・ブルデュー)に注目する理由は、一見個人的なものに見える苦悩が、社会的な要因によって生じていることを明らかにするためである。

3. 研究の方法

日本、韓国、フランスにおいて、ひとり親を対象に、3つの社会的苦悩である、(1)食事に関わる社会的苦悩、(2)教育に関わる社会的苦悩、(3)人間関係に関わる社会的苦悩に関するインタビュー調査を行った。また、韓国において、ひとり親家族の子どもを対象に、これら3つの社会的苦悩に関するアンケート調査を行った。日本においても、同様の調査を行った。その上で、3か国のひとり親家族の子どもが抱える3つの社会的苦悩について比較検討した。

また、日本、韓国、フランスにおける複数のNPOを対象に、3つの社会的苦悩である、(1)食事に関わる社会的苦悩、(2)教育に関わる社会的苦悩、(3)人間関係に関わる社会的苦悩に対するNPOによる支援の現状と課題についてインタビュー調査を行い、これらの社会的苦悩を解決するための政策について明らかにした。

4. 研究成果

(1) ひとり親家族の子どもの食事に関わる社会的苦悩に関して

日本のひとり親家族の子どもは、韓国のひとり親家族の子どもよりも、朝食や夕食を「毎日またはほとんど毎日食べる」傾向が見られたとともに、休日の昼食を「必ず食べる」傾向が見られた。また、日本のひとり親家族の子どもの方が、韓国のひとり親家族の子どもよりも、たんぱく質や野菜を「毎日食べる」傾向が見られた。また、無料で食事ができる場所に「行きたいが、我慢している」子どもが、日本と韓国において存在した。

ひとり親家族の子どもに対する非営利組織による食事の支援に関して、フランスと韓国にお

いては、非営利組織によって運営されている、無料で食品を取得できる「食品店」が発展しており、この「食品店」はフランスと韓国のひとり親家族の親と子どもにとって重要な存在となっていた。日本では、無料や低額で食事をすることができる「子ども食堂」が非営利組織によって積極的に運営されており、「子ども食堂」はひとり親家族の親と子どもにとって重要な存在となっていた。また、韓国における学校での朝食支援や学校給食の無償化は、ひとり親家族の子どもにとって重要な役割を果たしていた。なお、日本、韓国、フランスの3か国のなかで、フランスにおける食事に関わる支援が最も充実していた。

こうしたなか、本研究では、ひとり親家族の子どもの食事に関わる社会的苦悩の現状と、食事支援の現状と課題について明らかにした上で、ひとり親家族の子どもに対する食事支援の在り方について明らかにした。

(2) ひとり親家族の子どもの教育に関わる社会的苦悩に関して

日本のひとり親家族の子どもは、韓国のひとり親家族の子どもよりも、大学や大学院へ進学することを希望しない傾向が見られた。また、日本のひとり親家族の子どもは、韓国のひとり親家族の子どもよりも、家の大人と一緒に文化活動（美術館、音楽鑑賞、映画鑑賞など）や自然体験（キャンプ、海水浴、山登りなど）をしない傾向が見られた。さらに、塾、家庭教師、習い事を「やりたいが、我慢している」子どもが、日本と韓国において存在した。

ひとり親家族の子どもに対する非営利組織による教育の支援に関して、日本、韓国、及びフランスの非営利組織は、それぞれやり方は異なるものの、教育の支援としての文化的な活動の支援を活発に行い、ひとり親家族の子どもに良い効果をもたらしていた。なお、日本、韓国、フランスの3か国のなかで、フランスにおける教育に関わる支援が最も充実していた。とくに、フランスでは無償で高等教育が受けられるため、フランスのひとり親家族の子どもは、高等教育に係る費用について心配をしていなかった。

こうしたなか、本研究では、ひとり親家族の子どもの教育に関わる社会的苦悩の現状と、非営利組織による教育に関わる支援の現状と課題について明らかにした上で、ひとり親家族の子どもに対する教育の支援の在り方について明らかにした。

(3) ひとり親家族の子どもの人間関係に関わる社会的苦悩に関して

日本と韓国のひとり親家族の子どもは多くは、嫌なことや困ったことがある時に、「保護者」や「友達」が「助けたり、支えてくれる」と考えていた。また、日本のひとり親家族の子どもは韓国のひとり親家族の子どもよりも、「学校の先生」が「助けたり、支えてくれる」と考える傾向が見られた。さらに、悩みや困りごとを相談できる場所に「行きたいが、我慢している」子どもが、日本と韓国において存在した。

ひとり親家族の子どもと親との関係に関して、日本、韓国、及びフランスの非営利組織は、それぞれやり方は異なるものの、同居する親と子どもとの関係や別れて暮らす親と子どもとの関係等の人間関係に関わる支援を活発に行っていた。また、スクール・ソーシャルワーカーがひとり親家族の子どもに対して積極的な支援を行っていた。その結果、ひとり親家族の子どもに良い効果をもたらしていた。なお、日本、韓国、フランスの3か国のなかで、フランスにおける人間関係に関わる支援が最も充実していた。とくに、フランスでは、小児精神科医が積極的な支援を行い、ひとり親家族の子どもに良い効果をもたらしていた。

こうしたなか、本研究では、ひとり親家族の子どもの人間関係に関わる社会的苦悩の現状と、非営利組織による人間関係に関わる支援の現状と課題について明らかにした上で、ひとり親家

族の子どもに対する人間関係の支援の在り方について明らかにした。

現在日本では、「子育て・生活支援策」「就業支援策」「養育費の確保策」「経済的支援策」といった4つの柱からなるひとり親家族に対する政策と、子どもの貧困対策とが展開されているが、最終的に、本研究では、従来の政策をどのように変更すべきかについて明らかにした。以上の研究成果については、学文社から単著により出版する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. 黒川祥子『シングルマザー、その後』集英社新書、2021年、第4章「世界はシングルマザーをどう見ているのか フランスと韓国の場合」のフランスに関して、近藤理恵に対するインタビュー内容が掲載された(208頁~231頁)。 2. (招待講演) 近藤理恵「子どもの貧困と社会教育」2018年6月1日(広島県社会教育委員会による招待講演) 3. (招待講演) 近藤理恵「子育てをめぐる地域の現状と課題 ひとり親家庭支援を考える」2020年9月15日(母子生活支援施設・鶴心寮による招待講演) 4. (招待講演) 近藤理恵「海外における子どもを取り巻く環境と支援」2023年11月14日(公益財団法人みんなでつくる財団おかやまによる招待講演)</p>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	ソウル市立大学			
フランス	社会科学高等研究院			